

令和 6 年度 医療・介護連携における情報共有ツールの活用状況について

1. アンケート調査実施の概要について

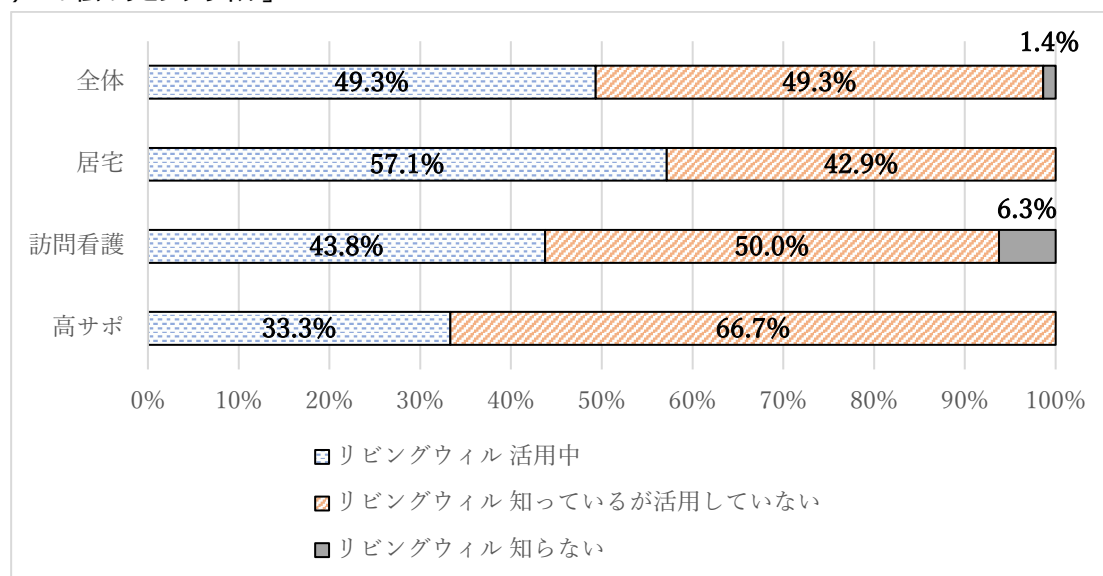
実施時期 令和 7 年 3 月

回答数

居宅介護事業所	43 ヶ所（調査対象：160 ヶ所）
訪問看護ステーション	16 ヶ所（調査対象：34 ヶ所）
高齢者サポートセンター	15 ヶ所

2. 活用状況に関するアンケート結果について

（1）「私のリビングウィル」



【活用していない理由】

■居宅介護支援事業所

- ・タイミングと聞き方が難しい。（同内容 2 件）
- ・情報が周知されていない。
- ・利用者や高齢の家族にとっては、「もし、あなたが病気や～苦痛の緩和は並行して行います」をイメージしたり理解が難しく、「まだいいです…」と言われたり「その時になってみないと判らない」と答える方も多い。

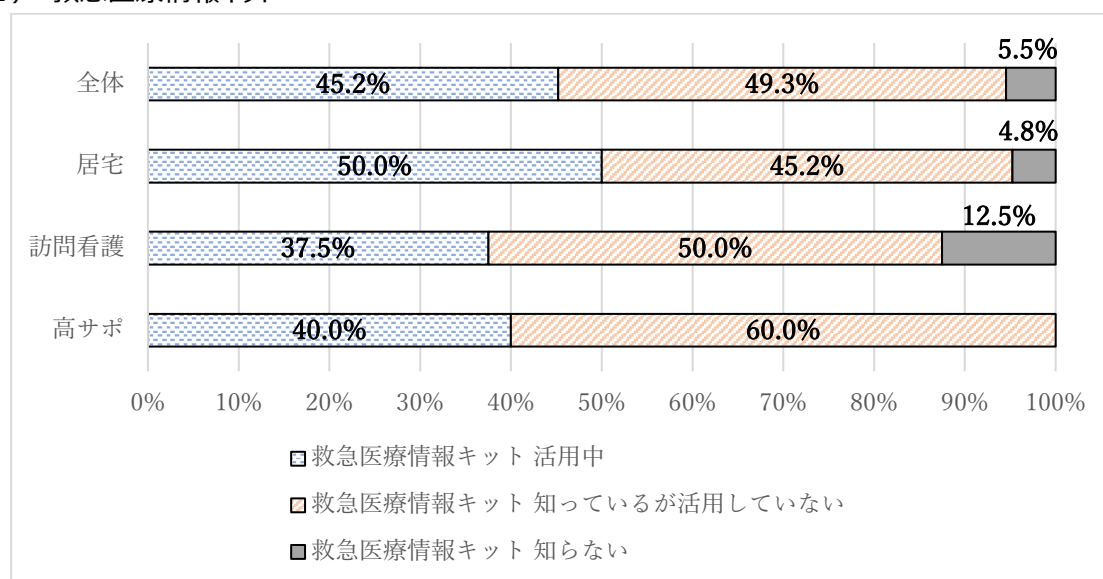
■訪問看護事業所

- ・該当する利用者がいない。なかなか使うタイミングがない。
- ・訪問時に必要としたケースが無い。契約時に延命処置の確認を行っている。
- ・医療機関で独自の物を利用したり、診察時に立ち合いその場で話し合っていることが多く使用するタイミングがない。

■高齢者サポートセンター

- ・高サポからこの資料を渡すような利用者がほとんどいなく、案内する機会に乏しい。（同内容 3 件）
- ・家族介護教室で紹介したが、気軽に書いていただくものではなく、専門職と意思決定支援のプロセスの中で書く内容に近いと感じている。

(2) 救急医療情報キット



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・対象になる利用者がいない。(同内容 2 件)
- ・必要だが情報が周知されていない。
- ・家族、訪問診療、訪看など救急車を呼ぶ前に訪問し介入している。
- ・対象者が独居の方が多く、中の情報をきちんと用意してかつ常に最新の情報に更新していくのが難しい。
- ・家族と同居している方が多い。独居の方が少なく、独居の方は訪問看護で対応して頂くことが多い。延命処置を希望していない為、救急搬送もしないと意思確認ができていない。
- ・冷蔵庫に物を入れることを拒絶することが多く、利用には至らないことが多い。
- ・認知症により冷蔵庫から出してもらったりシールをはがしてしまうケースもあった。
- ・利用者様の部屋の壁にキーパーソンや家族の連絡先を張り付けているので、あえて活用していない。
- ・事例が少ないので、独居や老々の家庭にはもっと広めたい。

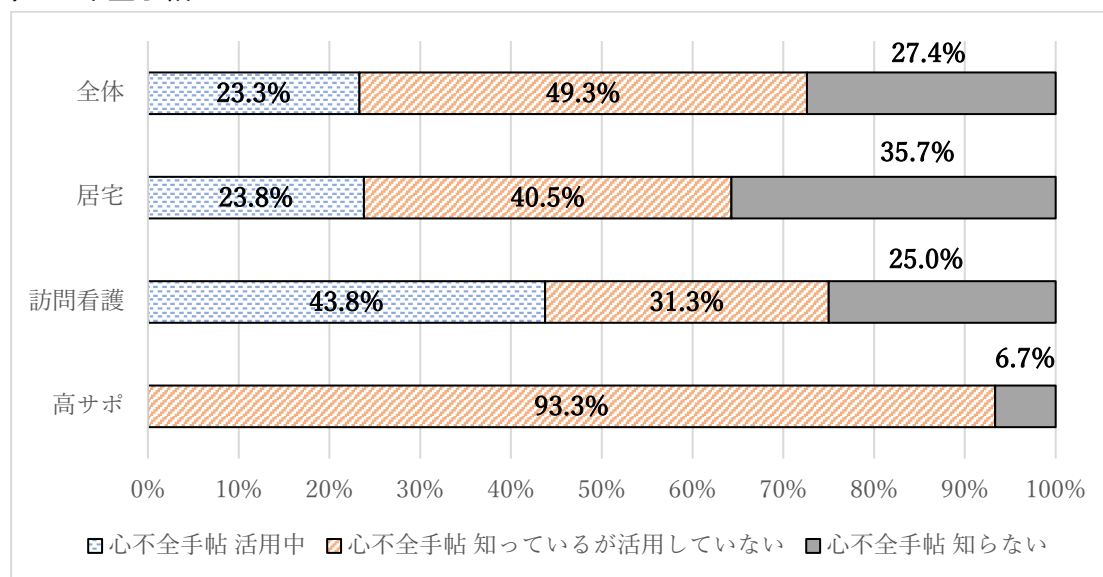
■ 訪問看護事業所

- ・訪問時に必要としたケースが無い。
- ・対象者は理解しているが家族を含め生活している対象 or 独居の方のみを対象にするのか判断が難しい。
- ・管理が困難。
- ・手続きや情報変更に手間がかかるため利用できないでいる。

■ 高齢者サポートセンター

- ・希望者がほばいない。(同内容 1 件) ・機会がない。(同内容 1 件) ・本人が管理できない。
- ・伝えても反応が鈍い。
- ・主治医が居る事や更新など条件や使い勝手が悪い。
- ・ほとんど渡すことがないため活用していないに○をした。対象と思われる方に会えば紹介し、配布している。
- ・かかりつけ医がいない方もいる。いちかわ社協作成のマグネットで対応していることが多い。

(3) 心不全手帖



【活用していない理由】

■ 居宅介護支援事業所

- ・対象になる利用者がいない。(同内容 3 件)
- ・活用方法が分からない。(同内容 1 件)
- ・該当者は病院から手渡されている場合が多く、その際は本人と一緒に記載項目を確認している。
- ・質問・相談があれば「こういったものがあります」とご提示させていただいている程度。
- ・項目が多くて使いこなせない。病院から渡されて、対応能力のある家族がいる方 1 名だけ使用している。
- ・手帳のことは知っているが本人の活用状況は確認していない。
- ・本人管理のケースはある。
- ・利用者様が理解して活用するには少し難しい。
- ・利用者、家族が所持しているが重症化して安定している為、また本人が日頃から利用していない。
- ・訪問看護師や家族にて体調管理しており、手帖活用はしていない。
- ・一人暮らし認知機能低下もあり手帳の管理が難しい。

■ 訪問看護事業所

- ・持っている利用者がいない。(同内容 2 件)
- ・訪問時に必要としたケースが無い。
- ・管理が困難。

■ 高齢者サポートセンター

- ・病院でもらうため、高サポで案内する機会がない。(同内容 4 件)
- ・活用の場面がない。(同内容 3 件)
- ・市の HP にもある通り医療機関から配布されるものであり、訪問しても保有している人を見ない。
- ・医療機関から発行されたものを訪問時確認する程度。

（４） その他

■居宅介護支援事業所

- ・ツールの情報を各事業所や市民にもっと認知して頂く必要があると感じる。特に心不全手帳等に関する情報はケアマネにも浸透していない
- ・救急医療情報キットは利用していた人もいたが、実際に救急搬送された際に救急隊は気づかず、そのままになっていることもあった。
- ・リビングウィルについては、訪問診療のドクターや訪問看護に同席し共有させて頂きケアプランに反映。
- ・救急医療情報キットは記載し救急隊員がわかる様に玄関か目の届くところにおいているが、救急隊が読むことはない様子（冷蔵庫への保管は利用者が嫌がる場合が多い為玄関におきステッカーは本人と相談した場所、や目のつきそうな場所に貼るように伝えている）。リビングウィルの記載は本人家族に任せているが、項目によっては無記入になっている場合が多い。
- ・もう少しこの情報共有ツールが周知されるよう、各事業所に配布される等、みんなに提示する機会を作って欲しい。
- ・現在も、訪問医、訪問看護さんと上記のことで、話し合い導入しているが、医療的なサービス等が入っていない方についての導入方法を模索している。特に独居の方で、医療サービスが入っていない方のより良い導入方法が今度の課題。現在、医療依存の高い方や、独居の方を中心に活用している。

■訪問看護事業所

- ・私のリビングウィル、救急医療情報キットは数名のみ活用しています。今年度は新たに活用した人はいません。倫理的な問題もあり、看護師より勧めることはしていない。
- ・私のリビングウィルは、家族会議を行ってほしい状況（ターミナル期に移行していく状態）になった時に、お声をかけてお渡ししている。実際に全て記入して医師サインをいただく事ができた人はいなかった。救急キットについては新規利用者はおらず、現在利用している方の情報（内服薬変更等）看護師が修正している。訪問看護利用者数は減少している。

■高齢者サポートセンター

- ・救急情報キットは高齢者のいる世帯全員を対象としてもよいのではとも感じる。個人的には案内をする対象者のイメージをはっきりさせることで、活用する側も利用しやすくなるのではないかな。
- ・現状の救急医療キットについては、利用対象者のハードルが高すぎるとは感じる。高齢者にとって、情報の定期更新が必須なことはそれだけで利用のハードルが上がる。支援者が協力するとしても、定期管理が負担につながることから、敬遠されてしまうことが想像される。